

風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫脹を特徴とする風しんウイルスによる感染性疾患です。一般に症状は軽症で予後も良好ですが、大人がかかると、発熱や発疹が長く続いたり、関節炎を認めるなど、小児より重症化することがあります。また、脳炎や血小板減少性紫斑病などの合併症を起こすことがあります。

また、妊婦が妊娠20週頃までに感染すると、胎児が風疹ウイルスに感染し、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする「先天性風しん症候群（CRS）」の赤ちゃんが生まれる可能性があります。

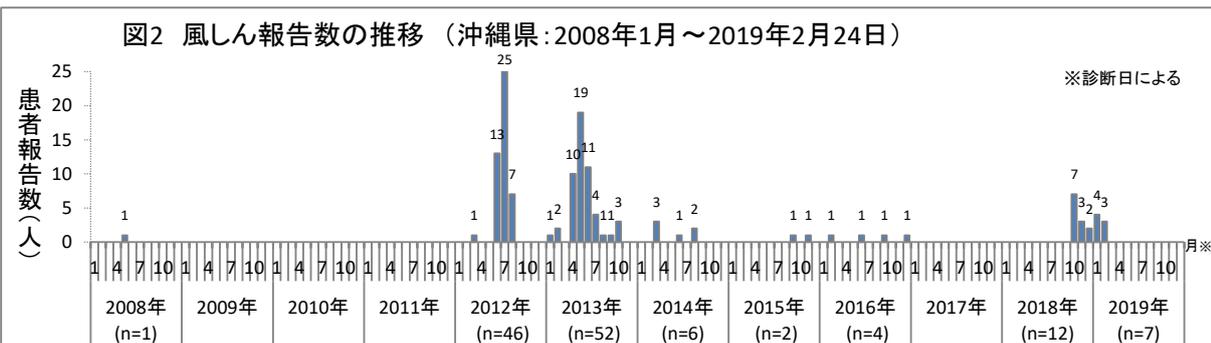
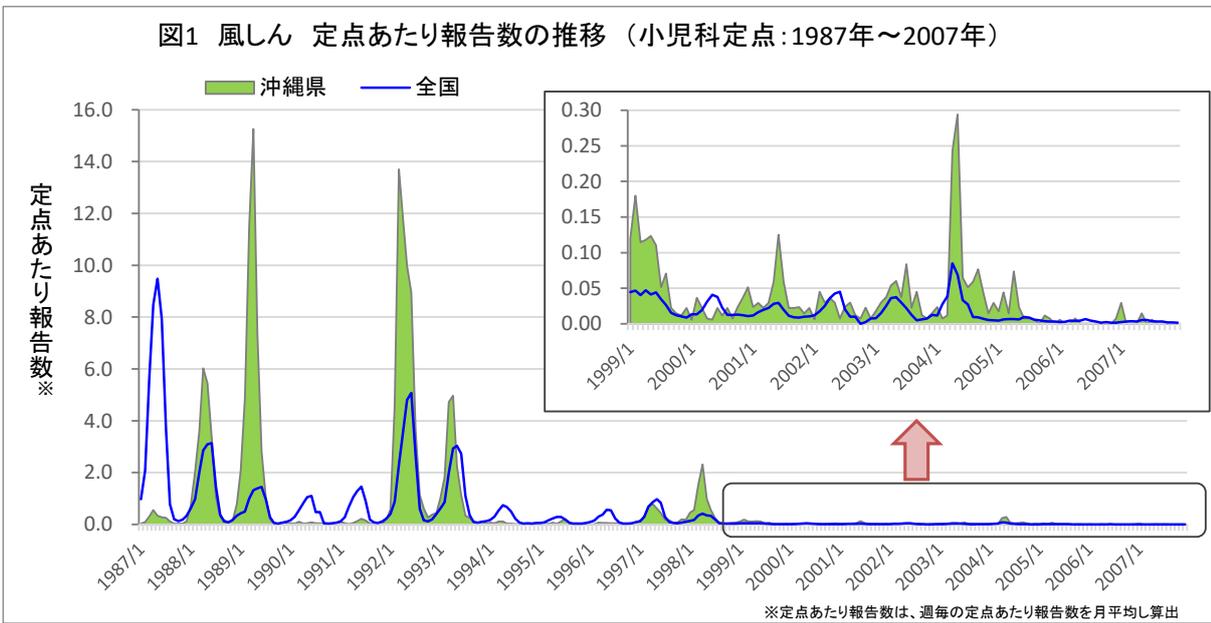
風しんに対する特別な治療法はありません。感染予防には、ワクチン接種が最も有効です。ワクチン接種により、妊婦が風しんに感染し赤ちゃんが先天性風疹症候群の障害を持つことのないよう予防することが重要です。

風しんの発生動向

風しんは、1990年代前半頃までは、数年ごとに流行がみられていましたが、定期接種が導入されてからは、大きな流行はみられなくなっていました〔図1〕。しかし、2012年から2013年にかけて、全国で20～40代の男性を中心に流行し、沖縄県でも、全国と同様に20代～40代の男性を中心に患者が増加し、2012年から2013年の2年間で98人の患者報告がありました。2015年以降は散発的に発生していましたが、2018年に関東地方での流行を契機に、同年10月以降、本県でも発生が報告されています。〔図2〕。

2012年の流行以降、全国では45人の先天性風しん症候群（CRS）の患者が報告されています（2018年10月7日時点）。沖縄県では、先天性風しん症候群が全数把握対象疾患となった1999年4月以降の患者報告はありませんが、過去には、1964年から1965年にかけて風しんが大流行したことにより、408人のCRSが確認されています*。

*参考文献：植田浩司，日本の風疹・先天性風しん症候群の疫学研究-偶然との出会い-，小児感染免疫，20(2)：247-258，2008



風疹は2008年1月1日から定点把握対象疾患から、全数把握対象疾患になりました。

関連リンク

- ・ [風しんについて〔厚生労働省〕](#)
- ・ [麻疹・風しん〔厚生労働省〕](#)
- ・ [風しん 発生動向調査〔国立感染症研究所〕](#)
- ・ [風しんQ&A\(2018年改訂\)〔国立感染症研究所〕](#)
- ・ [先天性風しん症候群に関するQ&A\(2013年9月\)〔国立感染症研究所〕](#)
- ・ [風疹流行および先天性風疹症候群の発生に関するリスクアセスメント〔国立感染症研究所〕](#)

【予防指針】

- ・ [風しんに関する特定感染症予防指針\(平成26年3月28日厚生労働省告示第122号\)〔厚生労働省〕](#)

【ガイドライン】

- ・ [医師による風しん・先天性風しん症候群届出ガイドライン〔第一版〕\(2015年3月27日\)〔国立感染症研究所〕](#)
- ・ [都道府県における麻疹風しん対策会議等に関するガイドライン〔第一版〕\(2015年3月10日\)〔国立感染症研究所〕](#)
- ・ [自治体における風しん発生時対応ガイドライン〔第一版〕\(2015年3月3日\)〔国立感染症研究所〕](#)
- ・ [職場における風しん対策ガイドライン\(2014年4月1日更新\)〔国立感染症研究所〕](#)
- ・ [医療機関における風しん対策ガイドライン\(2014年4月3日更新\)〔国立感染症研究所〕](#)

【予防接種】

- ・ [麻疹風しん予防接種の実施状況〔厚生労働省〕](#)

【風しん抗体保有状況(沖縄県)】

- ・ [感染症流行予測調査〔沖縄県衛生環境研究所〕](#)